

永観堂だより

ぎよきえ

御忌会く法然上人の御命日く

今年も、四月二十二日から二十五日までの四日間。本山永観堂において御忌会（ぎよきえ）が厳修されました。

御忌会は元々、法然上人の命日の一月二十五日に合わせて、一月十九日から二十五日までの一週間、



変更されて今日に至っています。

昼夜にわたって勤められてきましたが、明治の初めに参詣者の便などを考えて、厳寒の一月を避けて気候のよい陽春四月に

永観堂においても、毎年四月二十二日から二十五日の四日間、全国の当派寺院の関係者ならびに檀信徒の方々が参詣され、御影堂において盛大な法要が営まれます。また、これに合わせて御詠歌の奉納、お説教そして各種の回向や住職永年勤続者の表彰なども行われます。御忌会は本山の多くの年中行事の中で最も大きな行事です。

授戒会のお知らせ

法然上人八百回大遠忌を平成二十三年にお迎えするにあたり、本山永観堂禅林寺において記念授戒会を修行いたします。

日時 平成二十一年五月二日(土)

から六日(水)の五日間

場所 総本山永観堂禅林寺

受者数 五百名(いす席)

受者料金 六万五千円(五日間の

昼食代を含む)

贈授戒料金 三万円(一霊)

特別回向料金 一万円(一霊)

宿泊料金 二万円(朝夕二食つき

希望者のみ)

申込み締切り 六月三十日までに

常林院までご連絡

ください。

あとがき

▽今年も新緑のもみじの中、本山において御忌会が厳修されました。現在、遠忌に向けて大殿の屋根を改修中の為、大殿全体を工事用テントがおおっており、薄暗い中で御忌会となりましたが、全国から大勢の檀信徒が参拝におとずれ、無事に満座いたしました。

平成二十年五月一日発行

浄土宗西山禅林寺派

常林院

月影



第 23 号

花のたましい

金子みすゞ

散った花のたましいは、
み仏さまの花ぞのに、
ひとつ残らずうまれるの。
だって、お花はやさしくて、
おてんとさまが呼ぶときに、
ぱつとひらいて、ほほえんで、
ちようちよにあまいみつをやり、
人にや、においをみなくれて、
風がおいでとよぶときに、
やはりすなおについてゆき、
なきがらさえも、ままごとの
ごはんになってくれるから。

与えて生きるよろこび

お釈迦さまは、幸せになる第一の方法として「布施（ふせ）」と言うことを説かれています。「布施」とは、お寺へつつむお金のことだけではなく、物でも心でもよろこんで与えることを言います。

経典に「無財（むざい）の七施（しちせ）」という布施の行が説かれています。

① 身施 しんせ 親切なおこないをする

② 心施 しんせ 親切な心、やさしい心で接する

③ 眼施 げんせ いつもやさしいまなざしをする

④ 和顔悦色施 わげんえつじきせ やわらいだ顔、ニコニコした顔をする

⑤ 言辞施 ごんじせ いつもやさしく、いたわりの言葉をかける

⑥ 床座施 しょうざせ すすんで座席をゆずる

⑦ 房舎施 ぼうしゃせ 家でゆっくり休んでもらう

これら七つの布施は、いつでもどこでもだれにでもできる布施の行です。

人のよろこびが自分のよろこびとなる。

与えて生きるよろこびは、人生最大の幸せかもしれません。

お経の話

何が書いてあるの？

浄土宗西山勤行式せいごんごんぎょうしき（赤本）解説

四奉請しぶじよう

ほうぜいしほうじようらい じゆとうちよう さんからく
奉請十方如来 入道場 散華楽

ほうぜいせきやじよらい じゆとうちよう さんからく
奉請釈迦如来 入道場 散華楽

ほうぜいびたじよらい じゆとうちよう さんからく
奉請弥陀如来 入道場 散華楽

ほうぜいかんのんせいししよたいほき じゆとうちよう さんからく
奉請観音勢至諸大菩薩 入道場 散華楽

（訳）

お願い申し上げます。あらゆる世界にましますみ仏よ、どうぞこの道場にお越し下さいませ。華を散じてお迎えいたします。

お願い申し上げます。釈迦牟尼世尊よ、どうぞこの道場にお越し下さいませ。華を散じてお迎えいたします。お願い申し上げます。阿弥陀如来よ、どうぞこの道場にお越し下さいませ。華を散じてお迎えいたします。お願い申し上げます。観音菩薩、勢至菩薩、そしてもろもろの大菩薩よ、どうぞこの道場にお越しくださいませ。華を散じてお迎えいたします。

「香偈」で香をたいて身も心も浄らかにありたいと願い、「三宝礼」で心から仏法僧の三宝を敬い礼拝しました。そして次に「四奉請」でみ仏や菩薩方をお迎えします。

来客があると、部屋を掃除してきれいにするように、十方の如来、釈迦牟尼如来、阿弥陀如来、観音勢至などの諸菩薩をこの道場にお越しくださいさるように願って華を散らしてきれいにする気持ちで唱えます。

「入道場」の「道場」とは、仏道を修行する場所のことです。お寺の本堂だけではなく、各家庭の仏壇がある部屋が道場であるといえます。

「散華楽」は、み仏を道場にお迎えするために、華を散らすことです。華は清純な美しさをたたえ、微妙な香りを放ってみ仏を供養するのに最もふさわしいとされます。紙で華びらを模した散華（さんか）を散らしながら唱えますが、日常のおつとめでは略します。

また華は、み仏がお座りになるところとされ、そこを浄土にみたてます。四奉請を唱えて散華するのも、み仏の座するところをととのえ、浄土をあらわそうという思いからです。

あれこれ仏教用語

醍醐味（だいごみ）

「醍醐味」といえば、ほんとうの面白さ、かけがえのない楽しみという意味で使われます。

本来はインドにおける乳製品の乳味（にゅうみ）・酪味（らくみ）・生酥味（しょうそみ）・熟酥味（じゅくそみ）・醍醐味の五段階の状態が一番おいしい状態のことを醍醐味と言います。つまり、極上の乳製品、バターのことです。

「涅槃経」に「諸薬中、醍醐第一。よく衆生の熱恼乱心を治す」とあります。薬用としても使用されていたようです。

醍醐の原語はサンスクリット語でサルピス・マンダ。このサルピス・マンダとカルシウムを合わせてあのカルピスが名づけられました。

仏事と作法

問）

仏壇を新しく購入しました。

仏壇の供養や安置する方角はどうすればいいでしょうか？

答）

仏壇に魂を入れる、開眼供養（かいげんくよう）をしま

す。開眼供養は、仏壇・仏像・仏画・位牌・墓などを新しくつくったり、修復した時に、供養して魂を入れることです。

「お性根入れ（おしょうねいれ）」とも言います。

また反対に、古い仏壇などを処分するときや修理する時、また引越しなどで移動する時は、魂を抜く撥遣供養（はっけんくよう）をします。「お性根抜き（おしょうねぬき）」とも言います。そして修復（または移動）が終われば、再び開眼供養をして魂を入れます。

そして、仏壇の安置する方角ですが、大きく分けて次の三つの説があります。

①南面北座説

仏壇を南に向きに安置する。南からの風もよく通り湿気が少ない。

②本山中心説

仏壇をおがんだときに、本山の方角を向いているように安置する。わが家の仏壇をおがむことが本山をあげることになる。

③西方浄土説

仏壇を東向きに安置する。仏壇をおがむと西方にある極楽浄土に向かうことになる。

これら三つの説はそれぞれにうなずけますが、現実には家のつくりにあわせることになるのであまり方角にこだわらずに①湿気の少ないところ②落ち着いておがめるところ③家族が集まるところなどに安置しましょう。